

令和4年度水道事業会計決算について

水道は市民生活に直結するライフラインであり、都市の発展を支えるインフラとしても重要な役割を担っています。

経営状況は、人口減少により年々厳しくなっていますが、安全で良質な水道水を安定してお届けできるよう水道施設の耐震化をさらに進め、給水サービスの向上に努めていきます。

給水状況

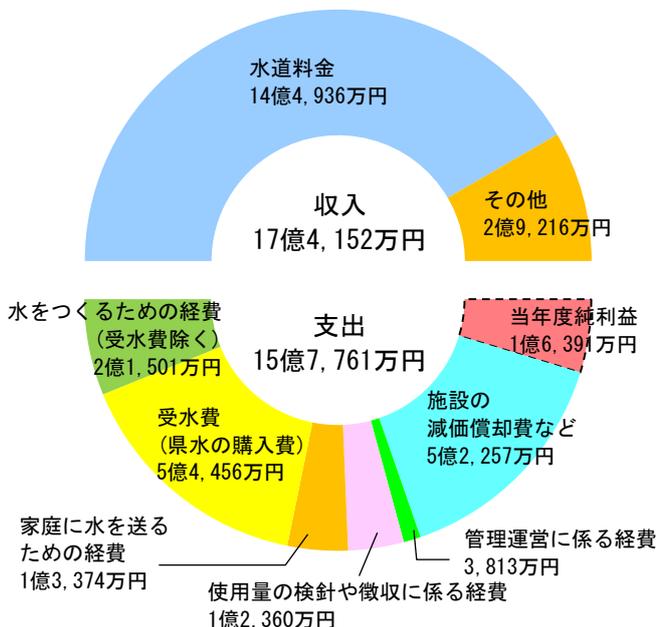
昨年度と比べ、水を送った件数は86件増えましたが、年間の給水量は9万5,898m³減り、水を使用した人数も816人減りました。

一般営業用の給水量は増加しましたが、人口減少や節水意識の向上などにより一般家庭への給水量が引き続き減少しており、この傾向は今後も続くものと思われま

項目	令和4年度	令和3年度	増減	比率(%)
行政区域内人口(人) A	74,411	75,233	△ 822	98.9
給水区域内人口(人) B	74,350	75,171	△ 821	98.9
年度末給水人口(人) C	74,305	75,121	△ 816	98.9
年度末給水件数(件)	34,707	34,621	86	100.2
行政区域内普及率(%) C/A	99.9	99.9	0.0	100.0
給水区域内普及率(%) C/B	99.9	99.9	0.0	100.0
年間給水量(m ³)	9,257,038	9,352,936	△ 95,898	99.0

経営活動に伴う収入と支出(損益収支のため消費税等抜き表示)

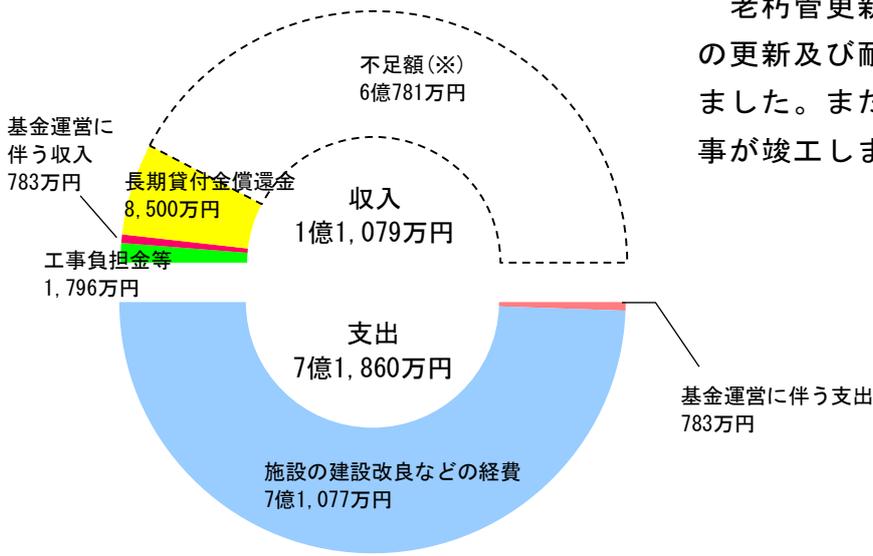
収入では、給水量の減少で水道料金が854万円減ったことなどにより、総額17億4,152万円となりました。



支出では、固定資産除却費、委託料、動力費等が増加し、総額15億7,761万円となりました。

その結果、収支は1億6,391万円の黒字となりました。

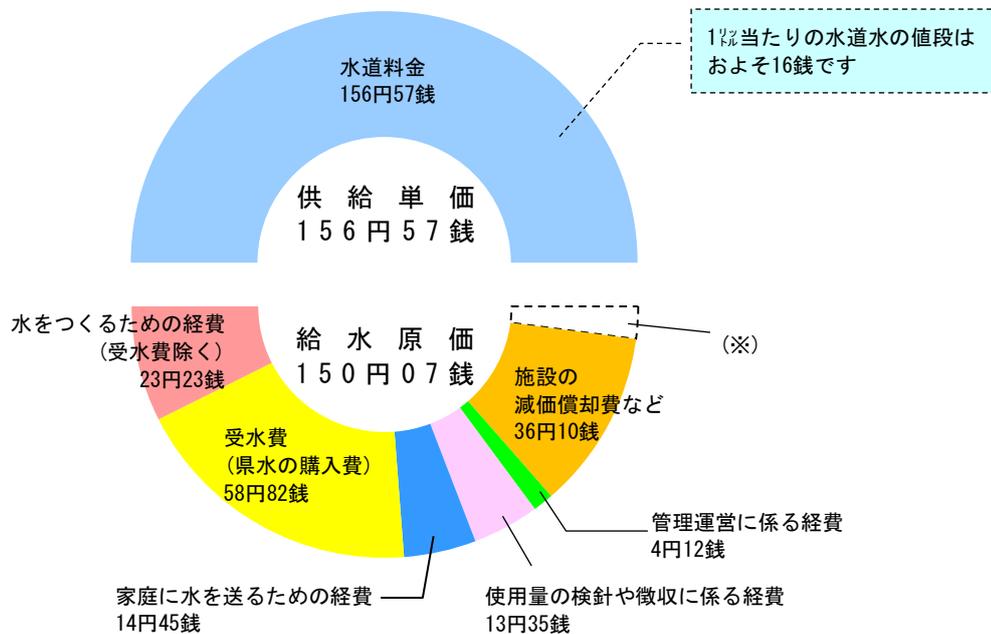
施設整備に要する収入と支出（資本収支のため消費税等込み表示）



老朽管更新工事に併せた主要管路の更新及び耐震化を計画的に実施しました。また、大二谷配水池改修工事が竣工しました。

※不足額は施設の減価償却費などの内部留保資金などで補てんしました。

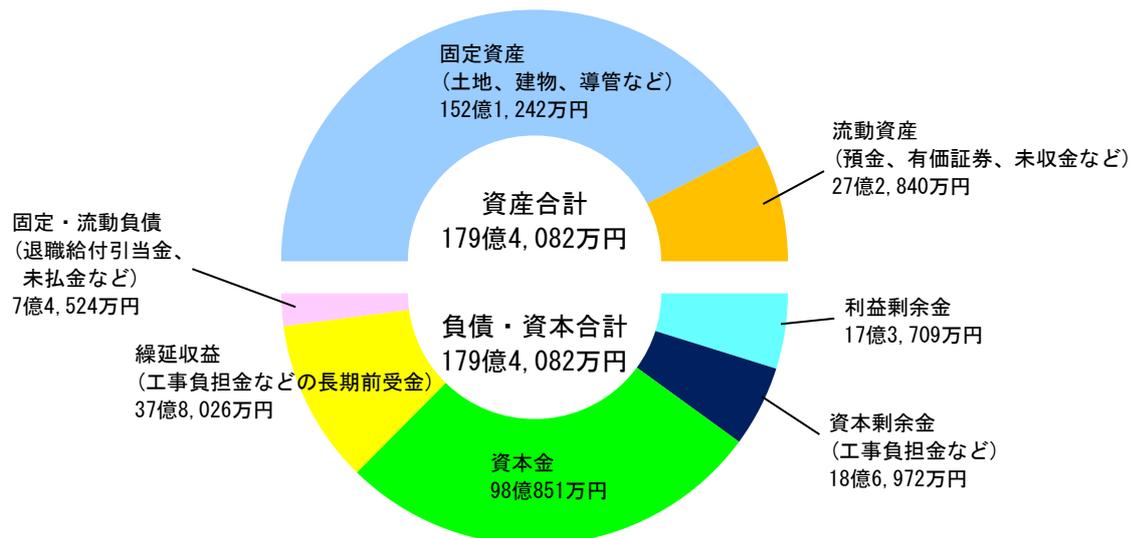
供給単価と給水原価（1m³(=1,000ℓ)当たり、消費税等抜き表示）



1ℓ当たりの水道水の値段はおよそ16銭です

※本年度は供給単価が給水原価を上回り、料金収入で給水に必要な費用が賄われました。

貸借対照表（令和5年3月31日現在）

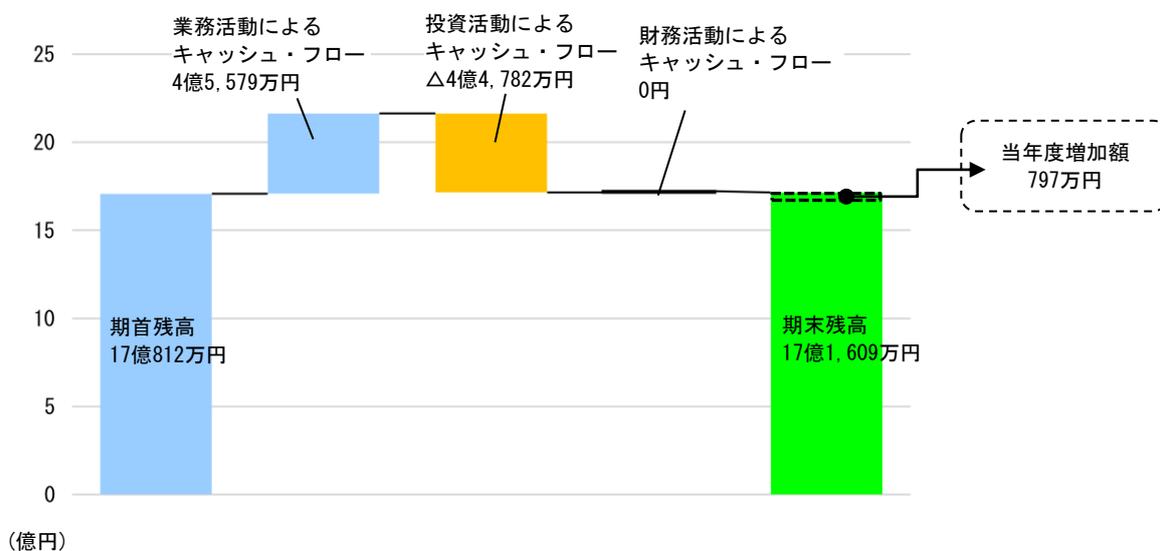


キャッシュ・フロー

キャッシュ・フローは現金（キャッシュ）の流れや増減を把握するものです。

「業務活動」によりキャッシュを増やし、設備投資などの「投資活動」や、借り入れた借金の返済などの「財務活動」を行うことでキャッシュが減少します。

本年度は、797万円のキャッシュが増加し、本年度末のキャッシュ残高は17億1,609万円となりました。



※業務活動：投資活動及び財務活動以外の通常の事業活動によるもの

※投資活動：固定資産の取得や売却、投資資産の取得や売却など

※財務活動：資金の調達や返済